

「博物館の運営について」

2019.12.27

▲ 一般に博物館(以後館)の運営に際しては、館における展示活動や学芸活動には来館者数あってのものというコストパフォーマンスの考えが極度に先行しているように思う。このため、館においては入場者数増を目指して企画面で工夫を凝らし、情報宣伝をち密に行い、グッズ販売を改善し、などの手立てが講じられているが、それでも状況が概して芳しくなく、対応に苦慮しているのが一般論としての現状かと思う。

そこで、私は抜本的対応として、今一度、「館と県民」といった視点で館活動が県民生活に寄与する役割をじっくりと深堀し、館の活性化に向けた実現可能な方策を述べてみることにする。以下に、項目ごとに考えを記したい。ただし、出前授業や企画展などについては、各専門家におまかせしてここでは扱わない。

▲ (1)館を取り巻く状況一般

館の効用を入場者数のみで推し量ることとは別に、館を生活環境として文化醸成の一翼を担っていることに着目し評価していくべきと思う。そもそも生活環境の文化的充実とは自然環境や社会環境の大枠のもとで生活環境の向上に寄与する文化的満足度のことであり、これには地域や家庭における日常生活に加えて教育や事業体の社会貢献を介した社会貢献などから支えられていると考える。これより、館は社会における文化創造の縮図(あるいは世界)ともいえ、地域に点在した文化醸成の文化ホットスポットということができる。

(2)立山博物館(以後立博)の根源的力の評価

上の根源論をもとに立博がもつ根源力を以下の三点でもっと評価していきたい。

第一は、立博は立山の自然と山の文化が県民の心の中にあると同時にこれらを可視化した世界であり、いなれば立山のまろもろを県民の日常と結接しているのである。県民にとって館の存在そのものが公用であり重要といえる。

第二には、芦嶺地域がそうした結接点を守り育てていることを評価すべきである。一般に地域づくりではすぐに金の落ちるシステムづくりのみになりがちであるが、文化をひたむきに支える姿勢こそが訪問者を含め県民には共感と感動を与えるのであり、また芦嶺地域が支えているのである。

第三には、立博の研究教育に関する学芸活動を高く評価すべきである。富山ではグローバルな日本海学の活動とあいまって、自然や文化の領域における立山学の存在も重みを増し、これまで同様大きな成果が上っている。今後もそうした学芸活動が継続発展できるよう支えていくべきである。またこうした動きを立山の問題だけではなく、全国の山の自然や文化に関して各

地域間の連携かつ支援へと繋げていくべきかと思う。

(3)具体的方策

一番になすべきことは、(県全体の)文化醸成について県民の意識向上とそれを支える地域学術の推進を図ることである。館の日常活動やイベント活動はいうに及ばないが、館と県民の距離を縮める策も「市民生活と館のパワーとの相互作用」として進めたいものである。以下に三点述べる。

(3.1)県民から館へ：十年に一度の程度で短期の県民コーナーの設置。県民の立山観が今どのような状態にあるかを世に紹介し、時には分析もする。これには、子どもの絵画、短歌マニアの作品、小学生立山登山感想、などあろう。これに加えてもうひとつとして、一般には立山が富山を自然の猛威から守っているという認識について、これも立山観として、なぜそのような認識があるかを人間行動学も含めた科学的な検討があつてもいい。ミニ講演会が開催されればと思う。

(3.2)館から地域へ：街づくりの観点で立博を盛り上げるムード作りとして、全国における山岳信仰の方々(各地の間を含めて)との連携として、全国視点での捉え方の姿勢を持ちながら他地域からの関心をフィードバックすることによって、富山の文化をグローバルにかつ多様的に捉えることが可能となり、意義は大きいと思う。

(3.3)館から県民へ：出前授業や大イベント開催で館が県民への直接アプローチはいうに及ばないが、私は、館の頑張りが自然と県民に伝わることを重要視している。そのためには、芦嶺地域一帯が立山文化のメッカとして活性化することで県民の意識化が進むと思っている。もし金をかけるなら、例えば大辻山や礼拝山に向かう道に一里塚の設置(距離間隔は任意)や、立山道路面に茶色のラインを引く(道路管理との協議困難か)などあってもいい。

(3.4)日常を基本にした散策地域が何となく感じられるようイメージ作りがあつてもいい。いまある宿坊の遺構をもとに、当時の光景をスマホ画面上にて各ロケーションで表示されるようなスマホ活用の意見は多いかと思うが、金をかけずにスマホでなく目に見えるムード作ることを狙うなら、(できれば)ポケットパークを作り、案内板を設けて、芦嶺の雰囲気を作るのもいいのではと思う。そこには、それなりに目立つ(立山をイメージしたデザインの)一里塚のような塚であつても案内板を添えるだけでもよいと思う。

▲ **まとめ**：以上の策には、立博の後ろに県民がいるということを念頭に置き、館と県民とで作る文化醸成につながればと思う次第である。